

事業コード	H20-建-継-12		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(改築)		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	一次改築(橋梁架替)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2492
路線名等	(主)大曲大森羽後線		担当課長名	小嶋 宣英
箇所名	大仙市 大曲橋		担当者名	主幹(兼)班長 遠田 久雄
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	04	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H16 ~ H27 (12年)		総事業費	83.0億円	国庫補助率	5.5/10	
事業規模	延長L=1,334m 幅員W=6.0(16.0)m						
事業の立案に至る背景	本路線は、大仙市の西部生活圏から中心都市部へ通勤、通学、通院等の日常生活を支援する重要な路線であるとともに、秋田自動車道大曲IC及び大仙市総合公園と大仙市中心部を連絡する道路の一部となる路線である。 しかし、当該区間は車道幅員が5.0mと狭小であるうえ、大曲橋は、架橋後約70年が経過しているため経年劣化による老朽化が著しく、通行不能に陥る危険性がある。このため、老朽橋架替による安全で円滑な交通の確保を図るため、道路整備を行うものである。						
事業目的	道路の防災対策・危機管理の充実(老朽橋架替) 物流の効率化の支援(秋田自動車道「大曲IC」) 地域づくりの支援(市町村合併支援) 冬期末改良区間の改良						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	8,300,000	8,300,000	0			
	経費内訳	工事費	5,890,000	5,890,000	0		
		用補費	1,830,000	1,830,000	0		
		その他	580,000	580,000	0		
	財源内訳	国庫補助	4,565,000	4,565,000	0		
		県債	3,548,000	3,548,000	0		
その他		0	0	0			
一般財源	187,000	187,000	0				
事業内容	調査・設計 用地買収補償 橋梁工 改良舗装工	調査・設計 用地買収補償 橋梁工 改良舗装工					
事業の進捗状況	地元の同意を得て、平成17年度より用地買収、平成19年度より工事に着手している。						
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	あきた21総合計画における「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業 大仙都市計画(都市計画道路栄線 H16.8.20告示)						
情勢の変化及び長期継続の理由	平成17年3月22日に旧大曲市外7町村が合併し、大仙市となった。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	県道改良率					
	指標式	改良率(改良済延長/路線実延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	69.3 %		データ等の出典	道路現況調査		
	実績値 b	70 %					
達成率 b/a	101.0 %		把握の時期	平成20年4月			

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	特になし			
	指摘事項への対応			
特になし				

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点		
必 要 性	当該区間は、幅員狭小(車道幅員5.0)で冬期堆雪幅が確保されておらず、道路構造上の欠陥箇所が存在する。 通学路指定路線であるが歩道がなく、通学児童及び生徒をはじめ地域住民の安全確保のため、早急な整備が必要である。 事故率が346件/億台kmと、県平均を大幅に上回っている(H18県平均41件/億台km)。	10点		
緊 急 性	大曲橋は昭和13年架設(架橋後約70年)の老朽橋であり、劣化・老朽化が顕著であるうえ設計強度及び耐震力が大幅に不足している。全国花火競技会の会場でもあり緊急時の通行確保のためにも橋梁の架替を含めた整備が早急に必要である。 市町村合併支援道路としての機能を有する。 あきた21総合計画における「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業。	12点		
有 効 性	大仙市西部生活圏から中心部への通勤・通学・通勤等に利用され、地域住民にとって重要な生活道路であるとともに、秋田自動車道大曲ICと大仙市中心部を連絡するアクセス道路であり、安全で円滑な交通を確保する上で整備後の有効性は高い。	30点		
効 率 性	事業の費用便益比は、2.06であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 7,257百万円 ・総便益の現在価値14,974百万円 計画交通量は、8,600台となっている。 橋梁部路肩幅員を1.5m 0.5mに縮小し、コスト縮減を図っている。 大規模バイパスのため、事業中止の場合の影響が大きい。	20点		
熟 度	事業に対する地元の合意を得ており、用地買収及び工事も順調に進んでいることから計画通りの進捗である。 事業の進捗が22%、用地買収の進捗が85%である。	15点		
判 定	ランク () 合併関係町村と大仙市中心部を結び、第二次医療施設へのアクセス性の向上等、地域住民の重要な生活道路であり、「必要性」、「緊急性」、「有効性」、「効率性」の項目で評価点が高く、引き続き実施すべき事業である。	87点		
総 合 評 価	継続	改善して継続	見直し	中止
	事業継続は妥当である。			

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

当該事業の施工にあたっては、整備計画を踏まえ、着実に推進するとともに引き続きコスト縮減に留意する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード (H20-建-継-12)

適用基準名 道路改築事業 (地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (大仙市 大曲橋)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数				
	・車道幅員 < 5.5 m	3箇所以上	8	6	
	・最小半径 < 100 m	2箇所	6		
	・最急勾配 > 5 %	1箇所	4		
	・冬期堆雪巾なし	0箇所以上	0		
	計		15		
	道路環境上の欠陥該当項目				
	・現道の混雑度 1.0	5件該当	7	4	
	・現道の旅行速度 30km/h	4件該当	6		
・現道の事故率 50件	3件該当	5			
・通学路指定で歩道なし	2件該当	4			
・重大交通事故が発生	1件該当	2			
計	該当項目なし	0			
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無				
	・県の主要プロジェクト	あり	4	4	
	・地域振興プロジェクト				
	・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	3	3	
		位置づけなし	0		
	交通量	増加している	3	0	
		増加していない	0		
	特有の課題の有無	あり	5	5	
	老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0		
	計		15	12	
有効性	道路の位置づけ				
	生活圏30分形成道路等	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	地域防災計画上重要な道路	該当する	7	7	
	該当しない	0			
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	9	9		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
	計		30	30	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比 (B/C)				
		1.0以上	5	5	
		0.5以上?1.0未満	3		
		0.5未満	0		
	計画交通量				
		1,000台/日以上	5	5	
		500台/日以上?1,000台日/未満	4		
	300台/日以上?500台日/未満	3			
	300台/日未満	0			
コスト縮減					
	あり	5	5		
	なし	0			
事業中止による影響					
	既投資額の損失大	5	5	e t c 大規模バイパス	
	既投資額の部分的損失	4			e t c 部分的ミニバイパ
	既投資額の損失が少ない	3			e t c 現道拡幅
	計		20	20	
熟度	事業の進捗進捗状況				
	事業の進捗 (事業費)				
		8割以上完了	10	5	
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
	用地買収の進捗 (面積)				
		8割以上完了	10	10	
	5割以上完了	8			
	1割以上完了	5			
	1割未満	2			
	未着手	0			
	計		20	15	
合計			100	87	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上 ~ 80点未満		
	優先度が低い	60点未満		